

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	31	学校名	山梨高校			
全・定・通	定	学年	1	在籍生徒数	10	名
教育目標 (学力に関するもの)		基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、自ら学ぶ力の育成を目指します。				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、自ら学ぶ力を育成します。				
各教科の取組						
教科	身に付けさせたい資質・能力		中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。		3.6	3.4	単元ごとの漢字や意味の小テストを行っているが、その活用について十分な成果につながっていないと思われる。活用できる場面をさらに増やしたい。	
	筋道を立てて考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		3.5	3.1	論理的にものを考え、それをもとにして他の生徒に正確に伝える力がつきづらかった。教材も精査していきたい。	
	言葉を通して他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしているとともに、読書に親しんで自己を向上させようとしている。		3.6	3.2	図書館を活用しての読書は年2回にとどまった。新聞記事などを活用した授業も取り入れる。	
地公	現代社会の課題について理解することができる。また、資料から適切に情報を読み取り、まとめる技能を身につけることができる。		3.6	3.7	授業プリントや小テストを通して、知識の定着を徹底していきたい。また、資料をしらべたり、活用したり、レポートなど意見をまとめる作業をする際に、BYOD端末の積極的な利用に努めたい。	
	現代社会の課題について、事実に基づいて複数の視点から考え、判断し、自分の考えを表現することができる。		3.5	3.2	授業のみならず普段の生活から、事実に基づいて考える癖をつけられるように、授業内やレポートでの問いの出し方を工夫していきたい。また、多面的・多角的に考察できるように図表や写真など、資料を充実させていきたい。	
	社会の一員として主体的に社会に参加する態度を身につけ、自らの生き方や在り方を考えることができる。		3.4	3.2	公民は、日常生活に直結するような内容が多い。生徒自身の生活と教科書の内容がどのように結びついているのか、また、将来生徒が社会に出たときに、学んだ内容がどのように生かすことができるのかを普段から考えてもらえるような授業を展開していきたい。	
数学	公式をおぼえ、実際の数で正しく利用することができる。		3.5	3.7	公式を正しく理解することで、公式の定着をはかるとともに、反復練習で正しく利用できるようにする。	
	計算(四則演算)のルールを理解し、正しい答えを導きだせる。グラフ等をかくことができる。		2.9	3.3	その場限りではなく、長期的に身につくように理解と演習を工夫する。ICTの活用をよりすることで、グラフのイメージを身に付けさせる。	
	意欲的に取り組み、数学的に考え合理的な判断をすることができる。		3.6	3.5	基礎的なことをしっかりと理解したうえで、数学的な考えを身につけたり、利用できたりできるようにする。	
理科						
英語	単語・熟語の発音や意味、表現や文法について理解をし、状況に応じて活用する技能を身に付けることができる。		3.6	3.8	ICTを活用し、英文の音読練習を毎時間行い、単語や熟語・表現や文法事項を状況に応じて活用できるよう指導する。	
	コミュニケーションを行う状況に応じて、日常的な話題について話し手や書き手の意図を理解し、表現することができる。		3.3	3.4	日常的な話題をイメージして、自分のことについて発話できるように、ICTを活用して表示する。	
	外国語の背景にある文化に対する理解深め、コミュニケーションを図ろうとしている。		3.3	3.7	英語の映画やニュースを取り入れることで、外国語の背景にある文化について理解を深め、コミュニケーションを促す。	
芸術	書の実現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けることができる。		3.4	3.3	書の実現をわかりやすく指導し、基礎的な技能を身に付けさせるとともに、書体の違いについてより理解を深めることのできることを目指す。	
	書の上さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい、伝えたりすることができる。		3.6	3.7	書体の制約がある中で、自分自身で構想や表現を工夫ができる指導をし、より豊かな表現をすることができることを目指す。	
	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していくことができる。		3.4	3.5	授業への取り組みは非常に熱心に取り組んでいるので、今後は日常生活の中にある書道についても興味・関心を持つことができることを目指す。	
家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けることができる。		3.3	3.0	知識については、生徒の理解に差はあるものの、概ね必要な事柄については学習させることが可能であった。しかし、科学的な観点から思考を深めて知識の幅を広げて行くことが難しい生徒もあり、今後の課題である。映像教材やインターネット資料などを使用し、工夫を重ねていきたい。	
	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決することができる。		3.4	2.9	家庭や地域における生活の中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて表現することについては、指導方法の改善が必要と思われる。自身の生活を見つめ、将来のライフデザインを設計しレポートや発表などで表現できるように授業内容を改善していきたい。	
	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に努めることができる。		3.5	3.0	生徒一人ひとりの家庭環境が異なり、将来への展望も様々であるが、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画させるとともに生活文化を継承するような態度を涵養していきたい。	
保体	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解させ、技能を身に付けている。		3.7	3.2	探究のテーマや目標を明確にし、達成すべき具体的な成果を設定する。	
	運動・健康について社会の課題を発見し合理的、計画的な解決に向け思慮し判断するとともに、他者に伝える力を養うことができる。		3.5	3.3	自分が興味を持っている運動や日常生活で気になることをりすしてみる。	
	健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。		3.8	3.1	自分の興味や関心を深めるために、積極的に情報を収集し、学び続ける姿勢を持つ。	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めることができる。	3.7	3.5	PCの基本的なスキル差が大きく、年度初めは授業の進度と目標の達成が非常に困難であった。年度の後半でもスキル差が埋まらなかった。次年度は、年度当初に基本的なスキル習得の徹底を行い、技能の習得と理解を深めることができるようにしたい。
	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することができる。	3.3	3.3	今年度は履修者数が多く、プログラムの学習内容では、基本的なアルゴリズム理解までに留まった。次年度は、資質・能力を育成するために4章の配当時間を増やし、応用的な内容まで学習することで、思考力・判断力の育成に取り組みたい。
	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画することができる。	3.5	3.5	授業への取り組みだけではなく、家庭科でのローンシミュレーションや総合的な探究の時間でのプレゼンなど、教科を横断して授業内容を活かすことができる能力を身に付けさせる。
総探	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解することができる。	—	3.5	先行研究を提示し、課題を探究する中で、新しい知識や技能を発見する喜びを持てるように工夫する。
	実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	—	3.5	実社会で生きている中での自分の課題を明確にできるよう、社会的な問題の具体例を示す。
	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとするすることができる。	—	3.4	それぞれの個性を生かして、クラスメイトと協力して探究活動を行うように毎時間声掛けをする。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う	82.5	77.5
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う	77.1	66.3
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	90.0	86.3
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	80.0	83.3
活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	60.0	58.9
授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う	70.0	70.0
家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	46.7	63.3
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う	46.7	62.9

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
質問項目:本校職員はわかりやすい授業のために、教材や教え方に工夫を凝らし、生徒の基礎的・基本的な学力の定着を目指して努力している。／高評価数値(4段階評価中4+3):100%／本校の学力に関する教育目標に対して、保護者から高い評価となった。今後も基礎・基本の定着をめざしたわかりやすい授業の実践を継続していきたい。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
本年度で報告書の作成や授業アンケート等が3年目になる。中学校で不登校だったために、基礎・基本が身につけていない生徒もいるため、生徒の到達度に応じた個別な最適化された課題や学習内容について、生徒の進路希望にも十分対応できる指導を心掛けていきたい。保護者からも支持を受けているので、くじけることなく努力を重ねる中で学習が深まるよう努力していく。